

講義コード	11C0382901	授業形態	講義	事前登録の有無	あり	担当教員	辻村 雅子	開講期	通年
科目名	経済統計								
履修前提条件					備考				
授業の目的	<p>一国経済の現状を数値で客観的に把握するための勘定体系として 国民経済計算体系 (The System of National Accounts: SNA) という国際基準が作成されている。この体系は国民所得支出勘定 (National Income and Outlay Accounts)、国民貸借対照表 (National Balance Sheets)、産業連関表 (Input-Output Accounts, Supply and Use Tables)、資金循環勘定 (Flow of Funds Accounts, Financial Accounts)、国際収支表・対外資産負債残高表 (Balance of Payments and International Investment Position) の5勘定により構成されている。本授業ではこれらの一つずつ取り上げ、マクロ経済の捉え方について理解を深められることを目指している。</p> <p>第1期には、まず国民経済計算体系の全体像を Gross Domestic Product (GDP、国内総生産) を中心に解説するとともに、GDPの推計に最も重要な役割を果たす産業連関表を取り挙げる。第2期には、経済全体の資金の流れを把握する統計である資金循環勘定と、国内経済と海外との経済取引を包括的に表現した国際収支統計を取り挙げる。統計の枠組みや作成方法を紹介するとともに、観察から導かれる知見や、実践的な分析手法も学ぶ。</p>								
到達目標	国民経済計算体系を構成する5勘定を基礎にしたマクロ経済の捉え方を理解し、基本的な分析手法を学ぶことで、自ら経済の現状を分析できるようになることを目標とする。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	120時間以上の授業外学修を行うこと。授業中に提示した課題を解き、レポートとして提出すること。								
授業計画	<p>【第1回】はじめに：経済統計とは</p> <p>【第2回】経済統計の歴史 (1) 政治算術と経済表</p> <p>【第3回】経済統計の歴史 (2) マクロ経済学と国民経済計算体系の発展</p> <p>【第4回】国民経済計算体系の5勘定の概要</p> <p>【第5回】産業連関表の解説 (1) 産業連関表の歴史</p> <p>【第6回】産業連関表の解説 (2) 統計の枠組み：中間財取引部門</p> <p>【第7回】産業連関表の解説 (3) 統計の枠組み：最終需要部門、付加価値部門</p> <p>【第8回】産業連関表の解説 (4) 統計の枠組み：名目GDPと実質GDP</p> <p>【第9回】産業連関分析の基礎 (1) 三角化</p> <p>【第10回】産業連関分析の基礎 (2) レオンティエフ逆行列を用いた波及分析</p> <p>【第11回】産業連関分析の基礎 (3) 影響力係数、感応度係数</p> <p>【第12回】産業連関分析の基礎 (4) スカイライン分析</p> <p>【第13回】産業連関分析から見た経済発展</p> <p>【第14回】様々な産業連関表：地域産業連関表、国際産業連関表、環境分析用産業連関表</p> <p>【第15回】総括</p> <p>【第16回】資金循環勘定の解説 (1) 資金循環勘定の歴史</p> <p>【第17回】資金循環勘定の解説 (2) 資金循環勘定の枠組み</p> <p>【第18回】資金循環勘定の解説 (3) 制度部門と金融商品の解説</p> <p>【第19回】資金循環勘定の読み方 (1) 資金運用・調達ポートフォリオ</p> <p>【第20回】資金循環勘定の読み方 (2) 制度部門別配分比率</p> <p>【第21回】資金循環勘定の読み方 (3) 資金過不足、金融資産負債差額と財政政策</p> <p>【第22回】資金循環勘定を用いた分析 (1) 金融連関表の作成と応用分析</p> <p>【第23回】資金循環勘定を用いた分析 (2) 資金循環構造の国際比較</p> <p>【第24回】国際収支表と対外資産負債残高表の解説 (1) 国際収支表作成の歴史的な背景</p> <p>【第25回】国際収支表と対外資産負債残高表の解説 (2) 国際収支表の歴史</p> <p>【第26回】国際収支表と対外資産負債残高表の解説 (3) 統計の枠組み</p> <p>【第27回】国際収支表の読み方</p> <p>【第28回】対外資産負債残高表の読み方</p> <p>【第29回】国際収支表と対外資産負債残高表を用いた分析</p> <p>【第30回】総括</p>								
成績評価の方法	レポート課題 (40%) と期末テスト (60%) で評価する。								
フィードバックの内容	授業内の課題の模範解答は、翌週の授業内やポータルサイトにて発表する。								
教科書									
指定図書									
参考書	『System of National Accounts 2008 (翻訳『2008年版国民勘定体系』)』 European Commission, International Monetary Fund, Organisation for Economic Cooperation and Development, United Nations and World Bank 2009年、『国民経済計算』倉林義正・作間逸雄 (東洋経済新報社) 1980年、『産業連関分析入門』宮沢健一 (日本経済新聞社) 2002年、『資金循環分析の軌跡と展望』辻村和佑 (編著) (慶應義塾大学出版会) 2004年、『国際資金循環分析－基礎技法と応用事例－』辻村和佑・辻村雅子 (慶應義塾大学出版会) 2008年								
教員からのお知らせ	経済学、統計学およびExcelの操作に関する基礎的な知識を前提として授業を行う。課題を解く際には、実際に経済統計をダウンロードして分析するため、パソコンを利用する。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付ける。								
その他									